



## 殺 虫 剤

# ランネート™ 45 DF

## 園芸用殺虫剤 (Lannate™ 45DF)

農林水産省登録  
第20863号



種類名／メソミル水和剤

有効成分の種類及び含有量／メソミル……………45.0%

その他の成分の種類及び含有量／鋳物質微粉、界面活性剤、色素等…55.0%

物理的・化学的性状／青色水和性微粒及び細粒

毒劇法／あり

消防法／該当なし

有効年限／4年

包装／100g×120袋、500g×24本

TM：デュポン、ダウ・アグロサイエンスもしくはパイオニアならびにこれらの関連会社または各所有者の商標

### 特 長

- 極めて速効的な効果を示します。害虫が発生した場合にも、食害が進む前に速やかに防除することが可能です。
- 幅広い害虫に効果を示します。チョウ目、アブラムシ類、アザミウマ類、ニジュウヤホシテントウ、ナメクジ、ネダニなど、多くの種類の害虫に高い活性を示します。
- 適用害虫の多くで、卵から成虫までの幅広い生育ステージに対して殺虫効果を示します。害虫の生育ステージが混在している期間でも、ランネート®45DFなら防除することが可能です。
- 優れた浸透性により、葉の裏面にも有効成分が速やかに広がります。葉裏に潜む害虫に対しても、高い効果を発揮します。また、土壌灌注によるネギアザミウマ（アスパラガス/ニラ）や、線虫（イチゴ）の防除も可能です。
- 30以上の適用作物があり、幅広い作物にご使用頂けます。

## 適用病害虫及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	メソミルを含む 農薬の総使用回数	使用 方法		
かぼちゃ	ワタアブラムシ	1000	100～300 ℓ	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	散布		
いちご	イチゴメセンチュウ イチゴセンチュウ			1000				100～300 ℓ	育苗期
	イチゴネグサレセン チュウ	定植後 生育初期							
		コガネムシ類幼虫	移植活着後 (育苗期)		4回以内	4回以内	散布		
ピーマン (露地栽培)	タバコガ ハスモンヨトウ	1000～2000	100～300 ℓ	2～3 ℓ /㎡				3回以内	3回以内
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 タマナギンウワバ			1000～2000	100～300 ℓ	2～3 ℓ /㎡	3回以内		
		収穫開始 14日前まで	3回以内			3回以内			
		収穫14日前 まで						2回以内 (は種時の土壌混和は 1回以内)	
はくさい	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000	100～300 ℓ	2回以内	3回以内	3回以内	散布		
こまつな	アブラムシ類			3回以内				3回以内	
かぶ	アオムシ アブラムシ類	1000	100～300 ℓ	収穫7日前 まで	2回以内	2回以内 (植付時の土壌混和は 1回以内)	散布		
レタス	ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000		2回以内				2回以内	
	オオタバコガ ナメクジ類	1000							
サラダ菜	ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000		2回以内				2回以内	
	オオタバコガ	1000							
カリフラワー	ヨトウムシ アブラムシ類	1000	2回以内	2回以内					
ブロッコリー	ヨトウムシ	1000～2000	100～300 ℓ	収穫7日前 まで	4回以内	4回以内	散布		
	アブラムシ類			4回以内					
ほうれんそう	ヨトウムシ ミナミキイロアザミウマ	1000～2000	100～300 ℓ	収穫14日前 まで	4回以内	4回以内	散布		
	アブラムシ類	1000							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	メンソールを含む農薬の総使用回数	使用方法			
ねぎ	シロイチモジヨトウ	1000	100～300 ℓ	収穫7日前まで	4回以内	4回以内	散布			
	クロバネキノコバエ類	1000～2000								
たまねぎ	ネギアザミウマ									
しょうが	ハスモンヨトウ	1000						収穫21日前まで	2回以内	(は種時の土壌混和は1回以内)
だいこん	アオムシ コナガ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ									
ばれいしょ	ジャガイモガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ	1000						収穫7日前まで	5回以内	5回以内
	アブラムシ類									
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	1000～2000						収穫14日前まで	4回以内	4回以内
だいちず	ハスモンヨトウ シロイチモジマダラ メイガ									
えだまめ	マメシンクイガ カメムシ類 ツメクサガ									
	てんさい		ヨトウムシ トビハムシ	5回以内	5回以内					
にんじん	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 クロバネキノコバエ類	1000	収穫前日まで	2回以内	2回以内 (は種前の土壌混和は1回以内)					
パセリ	アブラムシ類	2000	収穫30日前まで	1回	1回					
茶	ハスモンヨトウ チャトゲコナジラミ	1000	200～400 ℓ	摘採21日前まで	2回以内	2回以内				
	コカクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ ミドリヒメヨコバイ	1000～1500								
	チャノキイロアザミウマ ツマグロアオカスミカメ	1000～2000								
食用ゆり	クロバネキノコバエ類	500	—	植付前	1回	1回	30分間 種球浸漬			
セルリー	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類	1000	100～300 ℓ	収穫30日前まで	2回以内	2回以内	散布			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	メソミルを含む 農薬の総使用回数	使用 方法
アスパラガス	ネギアザミウマ	1000	100～300 ℓ	収穫前日 まで	1回	2回以内 (散布は1回以内、 灌注は1回以内)	散布
	ナメクジ類		1～3 ℓ /㎡	収穫3日前 まで			
にら	ネギアザミウマ クロバネキノコバエ類		1 ℓ /㎡	収穫21日前 まで	2回以内	2回以内	灌注
らっきょう	ネダニ類						
ごぼう	アブラムシ類		100～300 ℓ	収穫7日前 まで			
チンゲンサイ				収穫14日前 まで			
たばこ	タバコガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000～2000	25～180 ℓ	収穫10日前 まで			散布

## 上手な使い方

- 本剤は幅広い害虫への効果を有していますので、害虫の種類や生育ステージが多様になる作物生育期での使用が効果的です。(害虫相へのリセット効果)
- 抵抗性回避のため、連続散布はさけて作用機作の異なる薬剤とのローテーションを組んで使用してください。
- 本剤を灌注で使用する場合には、土壌の過度な乾燥はさけて十分な土壌水分がある状態で使用してください。



### 使用上の注意



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけてください。
- はくさいに使用する場合は、定植後20日以内では薬害の恐れがあるので使用しないでください。  
また、定植後20日頃に使用する場合は、低濃度（2000倍）で使用してください。
- ジャガイモガに対しては、潜葉幼虫を対象に使用してください。
- イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後（育苗期）に7～10日間隔で2～3回ジョロ等で灌注してください。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布してください。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行ってください。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布してください。

- 散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー（泡散布）してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ・ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
  - ・ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意するなど、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 本剤の使用に当たっては、危害防止のため使用条件などを誤らないように注意し、特にはじめで使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。



### 安全使用上の注意



- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けてください。
- 作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にしてください。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗ってください。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されています。呼吸が困難な場合は気道を確保してください。口移し人工呼吸は行わないでください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 薬液調製時及び使用の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをしてください。
- 本剤の散布に当たっては危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布することとし、作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しないでください。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布してください。
- 施設内において灌注処理を行う場合は、出入り口、天窓、側窓等を開け、適宜、通気を確保して作業を行ってください。
- 本剤の灌注処理に当たってはハス口状ノズルを使用してください。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下にして地面に向けて灌注してください。
- 被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わないでください。
- 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさけてください。

**水産動植物**…水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池などに飛散、流入しないよう注意して使用してください。

- ・ 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川などに流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。



### 保管上の注意



**保管**…直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封し食品と区別して保管してください。